

第28回
肺塞栓症研究会学術集会
モーニングセミナー

日時 ● 2021年11月27日(土) 10:05～10:35

オンライン開催 ● 本セミナーはWEBによるライブ配信となります。
詳細は研究会公式ホームページよりご確認ください。

<http://www.ja-sper.org/ja/event/>

院内発生肺血栓塞栓症による
死亡を予防するための
Quality Improvement
プロジェクト

座長 ● 山本 剛 先生

日本医科大学 循環器内科・心臓血管集中治療科 准教授

演者 ● 小板橋 紀通 先生

群馬大学医学部附属病院 循環器内科 病院講師

院内発生肺血栓塞栓症による死亡を予防するための Quality Improvementプロジェクト

群馬大学医学部附属病院 循環器内科 病院講師 **小板橋 紀通** 先生

急性肺血栓塞栓症(pulmonary thromboembolism: PTE)に代表される静脈血栓塞栓症 (venous thromboembolism: VTE) は、予防可能な院内死亡の原因の一つである。院内発生PTEに対する疾患の認識と予防への取り組みは、全国的に広がり、一定の予防効果は得られていると考えられるが、全国的に死亡事例の報告は続いている。エビデンスのある院内発症PTE予防策（①早期離床および運動、②水分補給・脱水を避ける、③弾性ストッキング、④間欠的下肢圧迫法、⑤抗凝固療法）が存在するにもかかわらず、院内PTEによる死亡がなくなるのはなぜか。医療従事者の知識不足、認識不足なのか、不徹底なだけなのか。当院での調査の結果、VTEリスクアセスメントの実施率は十分とは言えず、外科系の診療科と比較し内科系での実施率が低いことが判明している。これは、医療従事者の疾患についての知識およびリスク認識が不十分であることに加えて、リスクアセスメントが不要な入院患者がどの程度存在するのかのデータもないことも問題と考える。VTEリスクアセスメントの実施率の向上のためには、病院をあげて教育を実施し、予防プロセスのチェックやアラートシステムおよびVTE発生のフィードバックシステムの構築を病院として行う必要がある。加えて、患者への疾患啓発活動も重要視し、患者参加型のプロセスを構築する必要がある。今回、我々は、医療情報を扱うシステム統合センターと医療の質・安全管理部が協働し、VTE予防の質改善チーム (Quality Improvement : QI team) を形成し、「致死的な院内PTEを完全に予防すること」を最終的なアウトカムとして、包括的なQIプロセスの構築を実行する。院内VTE発生をアウトカムとすると、サーベイランスバイアスによってVTEの発生が増えてしまうため、予防の評価として不適切なためである。本プロジェクトは、①院内医療従事者への教育、②患者への啓蒙、③院内VTE予防バンドルの構築、④オーディット&フィードバック、⑤院内VTEの発生の評価、が基本プランである。医療従事者、患者への教育および院内情報システムを用いた評価システムを用いた包括的QIを特徴とする。現時点での取り組みの進行状況について紹介したい。